普段の研究活動を評価するためのルーブリック（研究Ⅲ）

福井県立藤島高等学校　企画研究部
（　　）組（　　）番 氏名（　　）

【活動の評価の観点について】
毎回の研究活動を、以下にルーブリックの形式で示した観点をふまえて自己評価・相互評価するとともに、学期ごとに重点とする【研究力】と教育活動のなかで総合的に培われた【厚みのある教養】の相関を踏まえて振り返ろう。
評価することが目的なのではなく、**日々の研究活動を振り返ることで自分の改善すべき点などを把握し、次の活動へ活かすことが目的**であることに留意する。

「研究」活動のルーブリック		到達度の評価			1学期 ※この学期で取り組んだ研究を振り返り、該当する観点すべてに記入してください。		２学期 ※この学期で取り組んだ研究を振り返り、該当する観点すべてに記入してください。	
		A	B	C	評価	理由　※その評価となった理由をできるだけ具体的に記述すること。	評価	理由　※その評価となった理由をできるだけ具体的に記述すること。
【研究力】観点	①課題の発見と ②仮説の設定	倫理的・社会的な課題意識をもとに現代社会を取り巻く課題を見出し、より良い未来社会の創造に向けて自らの力で仮説を立てている。	・動機をもって課題を立てたが、意義が十分まだ見いだせず、仮説を試行錯誤して立てようとしている。	・課題意識をもとに取り組んではいるが課題を見出すことができず、仮説を立てられていない。				
	③実験と検証	資料や講義を通して課題を解決するための多方面での専門的な知識を得、分析することで新たな視点を得ることができている。	・資料や講義を通して専門的な知識を得ることはできたが、まだ十分に分析できていない。	・専門的な知識に理解が伴わず、分析もできていない。				
	④分析と考察	議論を通して多面的に思考を深め、論理的な意見を組み立て他者との合意を形成できている。	・議論を通して思考を深めることができたが、まだ他者が納得できるような考察にはいたっていない。	・導かれた考察が課題に対応していなかったり、結論が妥当とは言い難い。				
	⑤新たな問いの発見	・課題に対して考える過程で新たな問題点を見出し、現代社会の問題を発展的に捉えることができている。 ・見通しを持って仮説について新たな知識を得て繰り返し検証・修正したり、議論をもとに再思考するなど、常に研究の過程を往還しながら研究全体のマネジメントを行うことができた。	・課題に対して考える過程で新たな問題点を見出すとともに、現代社会の問題について模索している。 ・仮説について新たな知識を得て繰り返し検証・修正したり、議論をもとに再思考するなど、研究の過程を往還しながら研究全体のマネジメントを行うことができた。	・課題を解決する過程で、新たな問題点をまだ見いだせないでいる。 ・研究の過程を往還して研究全体のマネジメントを考えることが不十分である。				
【厚みのある教養】観点	教養を支える知識・技能の習得と実社会を俯瞰して考える力の育成	・課題を解決するための様々な知識・経験を結び付け視野を広げるとともに、多面的な思考の基礎となる教養を身に着けている。 ・研究を通して、他者との共有の中で知を繋げ、多様な視点を往還しつつ問題構造を俯瞰的に捉えている。	・課題を解決するための様々な知識・経験を結び付け視野を広げるとともに、分野に関連する基礎知識を得ている。 ・研究を通して、他者との共有の中で自己の課題を相対的に捉えるとともに、多面的な視点を往還することができている。	・課題を解決するための様々な知識・経験を結び付けられておらず、分野と関連する知識が不十分である。 ・研究を通して、他者との共有をしているが、自己理解まで結びついておらず、相対的に課題を捉えることが不十分である。				

○【厚みのある教養】を伴わせた【研究力】の育成、【研究力】を身につけたことによる【厚みのある教養】の醸成 自然科学、人文社会の分野を問わず、各教科や研究の時間を通して得ることのできた【厚みのある教養】を、自分の【研究力】の育成に活かすことができただろうか。 また、【研究力】を磨くことで、広い知見を有した【厚みのある教養】を身につけることができただろうか。できるだけ具体的な例を挙げて振り返ってみよう。		

次の研究Ⅲの時間に回収します。それまでに記入しておくこと。